

単元名 そろばん

配当時間 2時間

単元の目標 (1) そろばんによる数の表し方や加法及び減法の計算の仕方を理解し、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができる。
 (2) そろばんの構造を捉え、簡単な加法及び減法の計算の仕方を考えることができる。
 (3) そろばんを用いた加法及び減法の計算に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

03040306_001

【準備等】 提示用そろばん（教師用）、そろばん（児童用）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 そろばんの構造、使い方、五珠の合成・分解の起こらない場合の計算の仕方を知り、簡単な加法・減法の計算をする。[p.100・p.101]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各部の名称、数の読み方を知る。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★そろばんを使った数の表し方や計算のしかたを知ろう。 ○そろばんの数を読む問題に取り組む。 ○基本的な数の入れ方、払い方を練習する。 <p>○$63+25$、$48-36$をそろばんを使って計算する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○大きな数や小数の計算の仕方を知る。</p> <p>2 五珠の合成・分解の起こる場合の加法・減法の計算をする。[p.102・p.103]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★そろばんを使って、いろいろな計算をしよう。 ○$14+31$や$34+12$の計算の仕方を学び、「練習問題」に取り組む。 ○$85-61$や$96-72$の計算の仕方を学び、「練習問題」に取り組む。 ○$9+3$や$7+6$の計算の仕方を学び、「練習問題」に取り組む。 ○$11-3$や$13-7$の計算の仕方を学び、「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二指法（人差し指と親指）で運指させ、珠を動かす順序を確認させる。 ・児童に定位点の位置を意識させる。 ・以下の4点を押さえる。「一珠は、親指で入れて、人差し指で払う。」「五珠は、入れるときも払うときも、人差し指で払う。」「6～9の数を入れるときは、親指と人差し指で同時にはさむように入れる。」「6～9の数を払うときは、一珠を人差し指で払ってから五珠も人差し指で払う。」 ・十の位から順に入れたり、払ったりすることを確認する。 ・そろばんに慣れていない児童が多いと予想できるので、活動時間を十分にとるようにする <p>【評】（2位数）±（2位数）の計算をそろばんを使って解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定位点のある桁を1の位として考えると、操作する場所は変わるが計算の仕方は変わらないことを確認する。 ・五珠を入れてから払う数について5の合成・分解を想起させながら見付けさせる。 ・十の位から順に計算することを再確認させる ・繰り上がりがあるときは、まず計算した位に数を置いて、その次に一つ上の位に1を加えることに気付かせる。 ・繰り下がりがあるときは、まず1つ上の位から1を払い、その次に計算した位に数を置くことに気付かせる。 <p>【評】繰り上がり、繰り下がりのある計算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する</p>

【 備 考 】

本単元ではそろばんに置かれた数を正しく読み取ること、盤面に間違いなく数を置くこと、姿勢、運珠などの基本を正確にすることが大切である。

珠算での加法・減法の難易度は数の大小より運珠法の難易によって決められているので、その段階を考慮して指導していく必要がある。また、小学校での珠算指導の目安としては、正しく使用できる程度であり、速さを追求する必要はない。